

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	中野ここわ保育園
法人名	株式会社ディアローグ
法人所在地	東京都渋谷区渋谷3-8-12 渋谷第一生命ビルディング7階

1. 活動のテーマ

<テーマ>

当園が開園以来継続して行っている教育活動の中の【英語】を活かしながら【ことば】についての探究活動を実践し、非認知能力の向上等の保育内容の充実を図ります。2025年度はことばの中でも英語と日本語の【オノマトペ】に注目をします。

<テーマの設定理由>

当園は開園以来、外国人英語講師が週2日来園し、レッスンでは保育者も生徒として園児と一緒にレッスンを受け、保育者も園児も英語は身近なことばとして存在しています。2024年度は子どもたちが同じ絵本、同じメロディの歌を日本語と英語で体験、体感することで、ことばに対する興味が広がりました。2025年度は子どもたちがさらに主体性を持って活動するように、ことばの中でも英語と日本語の【オノマトペ】に注目しようと考えました。またこの【オノマトペ】は乳児にも取り組みやすいテーマではないかと考えました。

2. 活動スケジュール

【問いかけ】保育者が子どもたちに問いかけました。「この動物さん、なんてなくかな〜?」「どうぶつえんで、どんなこえでないたか、きいたことある?」「ロバートせんせいは えいごのせんせいなんだよね。えいごでも おなじ こえかな〜?」英語講師が来園する日は、動物の鳴き声が出てくる英語の歌を歌ったり、動物以外の擬音語・擬態語（オノマトペ）が含まれた英語の絵本を読み聞かせたりします。その際、保育者も子どもたちと一緒に活動に参加します。また、自由遊びの時間には、保育者が日本語で動物の鳴き声が入った歌を歌い、英語講師も子どもたちと一緒に楽しめます。さらに、英語の活動で使用している絵カードを使って、みんなでオノマトペ遊びも行います。このように、子どもも大人も一緒に、日本語と英語それぞれのオノマトペに親しみ、共有して

【流れ】英語講師の来園日には、英語で動物の鳴き声の入った歌を歌ったり、動物以外の擬態語や擬音語《オノマトペ》の入った英語絵本の読み聞かせなどを行い、保育者は子どもたちと一緒に参加します。また自由遊びの時間に保育者が日本語で動物の鳴き声の入った歌を歌い、英語講師は子どもたちと一緒に参加します。また皆で一緒に英語で使っている絵カードで《オノマトペ》遊びをします。このように、子どもも大人も一緒に英語と日本語での《オノマトペ》を共有します。まだ発語が難しい乳児クラスにおいても、日本語と英語のオノマトペを楽しく体験できるようにしています。

【探究活動の実践と記録】英語活動の際には保育者が記録し、日本語活動の際には保育者ととも英語講師も記録し、特に子どもが英語を発している際のことばや音の聞き分けを担当しました。

*読み聞かせ：1歳児クラス*歌：1歳児クラス*カード遊び：1歳児クラス

【振り返りや共有】毎月月末に英語講師と職員のブリーフィングをおこなっているので、そこで探究活動の共有を行い、次月の問いを考え環境設定や探究活動のスケジュールを話し合います。保育者同士は職員会議で振り返りや共有を行います。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

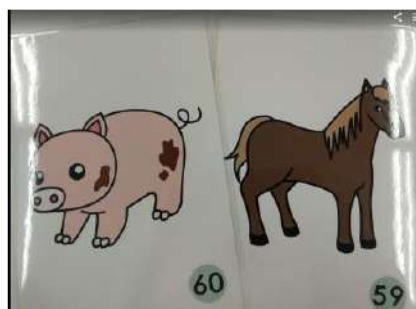
【環境設定】 英語講師の来園日に探究活動を行うよう環境を設定しました。

【素材】

* 同じメロディの日本語と英語の歌：「ゆかいな牧場」と"Old McDonald had a farm"

* 絵カード：動物、乗り物、オノマトペ絵カード

* どうぶつ図鑑：本当の動物の鳴き声とは？



4-①. 探究活動の実践（日本語）

<活動の内容>①「ゆかいな牧場」を保育者が日本語で歌う。英語講師も同席して一緒に聞く。6月

* 1歳児クラス：英語講師、保育者と一緒に日本語で「ゆかいな牧場」を歌う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

初めは大人の歌を聞いているだけであったが擬音の部分「ブーブー」をジェスチャーと共に模倣するようになる。歌の回数を重ねることでジェスチャーと一緒にを行うようになる。

4-①. 探究活動の実践（英語）

<活動の内容>①「ゆかいな牧場」と同じメロディ"Old McDonald"を英語で歌う。 7月

* 1歳児クラス：英語講師、保育者と一緒に「Old Mc Donald」を歌いながらジェスチャーする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

一歳ということもありまだ馴染みのない動物も歌詞に出てくる。主に大人の動きを見て音楽を聞いていることがメインであった。ジェスチャーがあることで動きを模倣し身体を揺らして楽しみながら興味を持つようになる。保育者が率先して「ブーブー」「オインオイン」と分かりやすいような擬音から始めることで興味や、やってみたいという気持ちを引きだすよう関わりを持つ。



5-①. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】馴染みのある日本語の方が発語しやすいこともあり、模倣するのは日本語の方が直ぐに出てくる様子である。保育者が何度も動作付きで「オインオイン」と見せると仕草付きで行う子が増える。環境によって発する言葉に変化があると感じた。

【次回への問い】英語のレッスンで使用しているカードをレッスンで使う場合と、自由遊びの中で同じカードを使うことで、子どもたちは英語をより発するようになるのか、またどのようにカードを使って活動するのだろうか？

4-②. 探究活動の実践（英語絵カードを英語レッスン中に使う）

<活動の内容>②英語レッスン中に"Animal"(動物)の英語絵カードを使う 8月

*1歳児クラス：動物フラッシュカード

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

英語講師が「chicken」と言いながらフラッシュカードを指さすと、子どもたちも一緒になって「chicken!」と言う姿が見られた。「ブタ」は「ブーブー!」と反応をし「Oink Oink」と言うことはなかった。



4-②. 探究活動の実践（英語絵カードを自由遊び中に使う）

<活動の内容>②自由遊び中に"Animal"(動物)の英語絵カードを使う。英語講師同席の場合と、そうでない場合の遊び方にも違いが出てくるのか。 9月

*1歳児クラス：自由遊びで動物フラッシュカードを使う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

英語講師が同席せず、自由遊びでカードを使うと、いつものように日本語で楽しんでいた。「ぶたさん」「おうまさん」などと知っている動物の名前を得意気に披露していた。英語講師が同席した場合には講師の真似をして英語で言う場面が見られた。

4-②. 探究活動の実践（日本語でも英語でもなく、本当の動物のなきごえは？）

<活動の内容>②自由遊び中に動物のなきごえ図鑑を使って本当の動物のなきごえを皆で聴く。 10月

* 1歳児クラス：本当の鳴き声を図鑑で聞く。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

保育者が図鑑を用いて鳴き声を流すと、図鑑の音に反応して保育者の元に来る様子が見られた。興味を示し、注意深く鳴き声を聞いた。英語講師が鳴き声と同じイラストをタッチできるようにすると悩みながらも絵カードに触れる姿があった。鳴き声を真似しようとする姿もあった。



5-②. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】自由遊びで絵カードを取り入れた際に、英語講師が同席しない場合には日本語でやりとりをしようとする子どもの姿があったが、英語講師と一緒に遊ぶと、英語講師の声を聞いて真似をしようとする意識が強まったように感じた。子どもの中で「この先生は違う言葉」ということが簡単に分かっており、即座に単語や鳴き声が違うことや発音を楽しんでいるように感じた。

【次回への問い】英語絵カードを違う種類にすることで、動物の鳴き声ではなく、また違うオノマトペに子どもたちはどのように気づき反応するだろうか？

4-③. 探究活動の実践（英語絵カードを自由遊び中に使う）

<活動の内容>③自由遊び中に“Vehicle”(乗り物)の英語絵カードを使う 10月

* 1歳児クラス：英語講師がどの乗り物が好きか絵カードを見せながら楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

講師が実際に乗り物の名前を英語で言いながら絵カードを見せる。どれがいいか講師が尋ねると絵カードをタッチする子どもの姿があった。それに対し、講師が「This is a car.」と言うと子どもも「car」と答える。答えられたことを保育者が褒めると、大いに喜ぶ姿があった。トラック、バスなどの日本語でも馴染みのある言葉は子どもから発言していた。

4-③. 探究活動の実践（英語絵カードを英語レッスン中に使う）

<活動の内容>③英語レッスン中に"Vehicle"(乗り物)の英語絵カードを使う 11月

*1歳児クラス：英語講師が乗り物の名前を1つずつ丁寧に伝え、子どもが真似をする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

講師が絵カードを用いながら乗り物の名前を英語で言ったり、ゆっくり分かりやすく言ったりすることで、真似する姿が見られた。上手に真似ができた際に保育者が褒めることで、自信をつけながらレッスンに参加する姿もあった。また自由遊び中には子どもの発言にでてこなかった「helicopter」も講師の真似をしながら言うことができていた。



5-③. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】自由遊びの時間とレッスンの時間では、子どものリアクションが大きく違うことに気が付いた。自由遊びの時間では子どもが知っている単語を発言し、保育者や講師に褒められ楽しむ姿があった。しかし、レッスンの時間で行った際は、講師の言い方を真似して、難しい単語を言えたことを喜ぶ姿があった。その中で絵カードを用いることで、視覚を刺激し子ども自身からの発言に繋がっていると感じた。

【次回への問い】英語講師、保育者も含めて子どもたちとオノマトペの絵カード遊びを通して子どもたちは擬音語や擬態語にどのように興味を深めていくのだろうか。

4-④. 探究活動の実践（オノマトペ絵カード）

<活動の内容>④保育者、英語講師と一緒に絵カード遊びをする：絵を見て子どもたちが擬音語、擬態語を言う。英語講師も英語で擬音語や擬態語を言う。 12月

* 1歳児クラス：保育者 英語講師と一緒に絵カードを見て擬音を言葉にしてみる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>絵カードを見て色の名称や形を言葉にして伝える様子がある。音の違いをジェスチャーで表現することで1歳でも感覚的に違いを感じられた様子である。表現することが楽しい年齢なので友だちや保育者の顔を見ながら行う姿が見られる。



5-④. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】絵カードを見ながら、色の名称や形を言葉にして伝えようとする姿が見られた。音の違いについては、ジェスチャーを用いて表現することで、1歳児でも感覚的に違いを感じ取っている様子がうかがえた。また、表現すること自体を楽しむ年齢でもあるため、友だちや保育者の顔を見ながら、嬉しそうに活動に参加する姿が見られた。今後も、言葉や身体表現を通して自分の感じたことを表せるような関わりを大切にしていきたい。

【次回への問い】子どもたちはことばには日本語も英語もあり、またそれ以外に様子を表す擬態語や擬音語があることに気づいたかもしれない。さらに音の違いを楽しめる活動、日本語や英語以外のことばの音の違いを楽しめるような環境を設定してみてはどうか？